

新しい熊本 1965年

昨年は待望の新産都市指定をはじめ、農業構造改善事業の進捗、天草架橋推進、九州横断道路の開通など、いわゆる次の飛躍にそなえての身ごしらえの年だといわれました。ところでこの一九六五年は果してどんな年になるでしょうか。いよいよきびしくなる日本経済の下、県の事業がいろいろ具体化する年だけに、踏み出しも自ずから慎重になりそうですが……

出席者

熊本県企画部長 村田 幹雄
商工水産部長 河端 脩
〔司会〕 広報課長 大井 健司

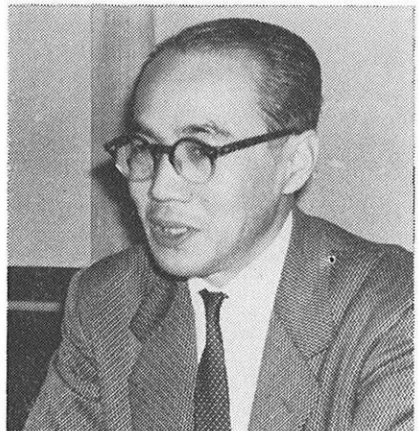
着実に、力強く スタート…

司会 今年はい年にあたりませんが、已(蛇)は、何か商売に非常に関係あるものなそう、今年、経済に關係深い年になりそうです。事実、県計画ができました昭和三十六年以降、新産都市指定とか、構造改善の進捗など、大きな経済的変動をみていると思います。そこで、総合的に見た県勢の展望といった形で、この巳年は、どういう年になるか、ひとつその辺からお話しいただきたいのですが……

村田 財政再建が終りひとり立ちになつて四年やつてきたわけですが、三十八年から三十九年にかけては、非常に客観的条件が変つてきたように思います。例えば、新産都市の指定であるとか、農業構造改善事業が非常な勢いで進んでいるとか、横断道路ができ、或いは国鉄の複線化電化の話もまともに進んでいまして、いろいろな条件が、三十九年中に殆んど揃つたという感じがします。三十九年は、ここ数年間に堆積してきたいろいろな条件を整理して、次の飛躍にそなえるという年であつたと思うのです。まあ、身ごしらえをした年とでもいいますか。

さて、今年ですが、この身ごしらえが済んで、いよいよ第一歩を踏み出す、前進の年になるだろうと、こんなふうに感じます。

新産都市の計画も、具体的に進める年になるし、県計画にしても、今年から新しい衣をかぶつて踏み出すし、熊本県に



▲村田 部長

とつて、非常に意義のある年、発展のための第一歩の年になると思います。

ただ期待するのあまり、大きく踏み出しすぎると、あるいは背のびしすぎると問題も起きてきましようし、何よりもまず、身ごしらえ十分に、力強くしかも着実に第一歩を踏み出すということが何よりも必要だと思います。

経済についてみると、県民所得は、この三年間に非常なテンポで伸びて



きております。それから工業出荷額にしても、伸びが大きくなつて、そういう意味で、県の姿としては、はずみがついてきている時期です。そこへ、いろいろな計画が固まつてきて、道路計画、新産計画その他の計画がより合わされて進められる。そんな感じですね。

——三十六年の県計画の骨子になった農業の近代化、工業化、人づくり、基盤整備の四つの柱ですが、この四つの柱が、今年は一層具体的な形をあらわし始める年というわけですね。しかし、財政的にも、なかなか大変でしょうが……

村田 たしかに人件費の増、消費的経費の増などで、財政的な問題はあります。が開発のために投資的な仕事を上で、金は使ひ方だと思ふんです。県の力が伸びてい

県計画—市町村ごとの対策・計画へ

——今年、恐らく県計画の改訂といひますか、少くとも、新しい局面を迎えた、新しい県計画が作られると思ひますが、大よその骨子はどんなものになりましようか。

村田 新しい県計画も、従来の骨子を踏襲することには変りないのです。ただ今までの計画の実績の中で、非常に伸びたものとか、新しい条件ができたとかのために、書き加えなくてはならないこと、あるいは今まで十分ふれてなかつた点、もう少しわしくふれるとか、そういう意味で、内容的な補完改訂をするという趣旨のものです。

精神としては、従来の県計画を踏襲し、それを現時点に適合するよう手直しをしようということになつたわけですね。

まず、農業の躍進、工業化の促進、基盤整備、それに人づくりという基本線は変らないのですが、その表現として、豊かな県民生活を実現するということを基本目標に掲げようと考えています。

従来は、所得増大のためにという点をあげていましたが、豊かな県民生活を、というんですね。内容としては、県民所得を高めることももちろんですが、もうひとつ、県民福祉を向上するという点を打ち出して、こうと考えているわけですね。産業近代化、産業基盤の強化、人づくりを進めると共に生活環境を整備するといったものを織り込んでいきたいということ、ニューアンスの相違はあつても基本的には変りないわけですね。

河端 それともうひとつ、これは方法論として、地域区分の問題があるんですね。従来、四本の柱が中心になつて、地域別の構想というのが、はっきりしなかつたんじゃないですか。それが、新産都市の問題が新しく加わつてきたし、前の県計画作成以来、変わつてきた法律、制度、あるいは県としてそれに乗り入れたものもあるし、ここで、新産地域、離島地域、山間地域とか、そうした地域区分をはっきりさせていきたいというわけですね。

村田 計画の積み立て方として、拠点